

草の根・人間の安全保障無償資金協力

「リロングウェ県マチェンチェ小学校給食用灌漑設備・炊事場 整備計画」

完工式

2019年12月3日



(左) テープカットを行う柳沢大使と教育省スウィラ学校保健栄養副局長
(右) 記念撮影を行う柳沢大使と関係者



(左) スピーチを行う柳沢大使
(右) 教育省スウィラ学校保健栄養副局長



(左) スピーチを行う灌漑と持続可能な開発のための財団（FIRD）コンドワニ代表
(右) 歌と踊りを披露するマチェンチェ小学校女子児童



(左) 灌漑設備および給食用炊事場について説明を受ける柳沢大使とスウィラ副局長
(右) 灌漑設備農園の野菜を視察する柳沢大使



(左) 児童に給食を配る柳沢大使
(右) 柳沢大使を囲むマチェンチェ小学校児童達

2019年12月3日、マラウイ国中部リロングウェ県チセカ地区にて、被供与団体である「灌漑と持続可能な開発のための財団」(FISD)の主催により、草の根・人間の安全保障無償資金協力「リロングウェ県マチェンチェ小学校給食用灌漑設備・炊事場整備計画」による灌漑設備と炊事場の完工式が行われました。式典には、教育省のスウィラ学校保健栄養副局長も列席し、関係者が祝辞を述べました。

本年3月5日、日本政府は、草の根・人間の安全保障無償資金協力プロジェクトを通じて、当地NGOであるFISDに40,971米ドルを贈与しました。この資金で、リロングウェ県マチェンチェ小学校に灌漑設備と給食用炊事場の建設を行い、学校給食を提供することで児童の就学率および成績の向上を目指すというプロジェクトを実施しました。本プロジェクトは4段階あり、まず始めに灌漑設備の整備、2つ目に換金価値の高い作物の栽培、3つ目に栽培した農産物の販売、そして最後は、農産物の販売収益で給食の材料調達を行い児童達に給食を提供することです。

式典の中で柳沢大使は、合意された期間内に質の高い灌漑設備および炊事場の建設が行われたことに対して、被供与団体に賛辞を述べました。また、地域住民全員にプロジェクトへの参加を呼びかけ、児童達が学校教育の一環として作物の栽培に参加することで、自立の精神を学ぶことができることを伝えました。さらに、本プロジェクトを継続的に推進するために、地域住民や学校が様々な分野に関わり、灌漑設備や農作物が盗まれないように監視し治安を強化するよう地域リーダーに要請しました。最後に柳沢大使は、学校で給食が提供できるようになったので、楽しく登校し、学習に励み、将来のリーダーに成長するように児童達に励ましの言葉を掛けました。